



8月

## 今月の江戸しぐさ「傍楽（働く）」

「傍(はた)を楽にする」「働く」は、日本人が自分の為だけではなく、人や社会の為に働くという健全な観念を持っていたことを表しています。

人は人の為に何かをするとβ-エンドルフィンが強く分泌され、自分の為以上に喜びを感じることが分っていますが、日本人は労働は苦痛ではなく、尊いものであり、労働本来に価値があり、人生を豊かにしてくれるという観念がありました。

幕末の外国人観察者は、日本人が明るく楽しそうに仕事をしている様が不思議だったのか、多数記録されています。

(職人の様式に沿った仕事を除きます)

これに対して、欧米を旅行し終了間際に店や役所に行ったりするとよく経験すると思いますが、キリスト教の宗教観の強い影響下にある欧米では、旧約聖書、創世記に書かれてあるとおり、労働とは、楽園であるエデンの園からアダムとイブが、禁じられた果実を食べた為に追放されたこと(原罪)から始まるとされ、労働は原罪に対する罰であり、苦痛であるので、賃金はそれに対する報酬という観念があります。

(規定時間以外に仕事が延びることを非常に嫌います)

病院は、苦痛に対して傍を楽にする、尊い職場です。苦痛を楽にするにはそれぞれの職種でプロとしての技術の高さと知識の研鑽が必要です。そしてそれは、自分の人生の喜びとなって返ってくるものです。



8月

※江戸思草は、江戸時代の町民が良いとされること、悪いとされることなどの生活の規範としていたものです。

判断の基準は粹かどうかだったようです。

粹の概念は武士の武士道に対抗するものだったという説があります。他の国にない、一般庶民の高度な精神性が、当時日本に来た外国人に驚きをあたえていたことが多数記録されています。

ヘレン・ハイド

Helen Hyde(1868~1919)

日本を愛したアメリカ人版画家。  
江戸の風情が強く残っていた明治期に10年以上滞在し、女性の視点から愛らしい子供の作品をたくさん残してくれました。

当時の外国の観察者の多くが、西洋諸国と子供の様子や子育ての考え方が根本的に異なっていることに驚いていました。

